

「長崎市中央部・臨海地域」都市再生委員会（第1回）議事概要

1. 日 時：平成23年10月18日（火）13:30～15:10

2. 場 所：県庁本館3階特別会議室

3. 出席者：都市再生委員会委員9名

脇田安大委員長、有馬一郎委員、伊藤 滋委員、川添一巳委員、外井哲志委員、林一馬委員、原口 誠委員、山口純哉委員、渡邊貴史委員

（欠席2名：中田 洋委員、平野啓子委員）

都市再生委員会事務局

長崎県 副知事（石塚 孝） 企画振興部長（永川重幸）

企画振興部参事監（加藤 永） まちづくり推進室長（松元栄治郎）

まちづくり推進室（植村公彦、石田祐子、添川信一）

長崎市 副市長（三藤義文） 建設局長（池田敏明） 都市計画部長（林 一

彦） 都市計画部次長（池田 宏） まちづくり推進室長（田畑徳明）

まちづくり推進室（森尾宣紀、森川哲次、川原直樹）

4. 内 容

（副市長）

あいさつ

- ・観光立国を牽引する都市として平成20年に「都市・居住環境整備重点地域」に指定されたことを受けて、長崎県と長崎市が共同して都市再生に向けた計画作りを行うため本委員会を設置している。
- ・平成21年7月の設置以来、平成21年度は基本計画、平成22年度は松が枝周辺エリア整備計画について、委員の皆様から活発なご議論をいただき、お陰をもって策定することができた。
- ・長崎市では平成23年度を初年度とする第4次総合計画の中で10年後の将来像を「個性輝く世界都市」、「希望あふれる人間都市」と定めている。「世界都市」とは平和・交流・産業などを通して、長崎の価値を世界に発信し、貢献することで世界の長崎市として開いてきた存在感を持つことであり、「人間都市」とは、人間性が尊重され、子供からお年寄りまで誰もが豊かで生き生きと暮らせることである。
- ・都市再生の計画においても、交流人口の拡大により地域の活力の再生を図ることとなっているが、交流という言葉が長崎の活性化を図る上で重要なキーワードとなっている。
- ・今年度は、昨年度に引き続き長崎駅周辺エリア整備計画についてご審議をお願いするが、平成35年度を完了目標に長崎市で進めている長崎駅周辺土地区画整理事業や長崎県で進められているJR長崎本線連続立体交差事業などの大型事業が存在し、まさに県市共同で新しい陸のゲートウェイとして一体となって取り組むべきエリアである。
- ・この委員会においても交流に繋がるまちづくりを促進する上で、皆様からの忌憚のないご意見をいただくようお願いする。

（事務局）

・資料1から資料2の説明

・委員長の選任だが、昨年度委員会の運営にご尽力いただいた脇田委員に引き続きお願いしたいと考えている。

（一同）

・異議なし。

(委員長)

- ・昨年度の延長戦ということでよろしく願います。
- ・事務局より資料の説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料3、4についての説明。

(委員長)

- ・ご意見等ないか。

(特になし)

- ・資料5の説明をお願いします。

(事務局)

- ・資料5の説明。

(委員長)

- ・盛りだくさんというか、今後の長崎の100年の顔が決定していくことになる。
- ・皆様のご意見を伺いたい。言いたいことを言っていただいて、事務局に調べていただくことになるかと思う。

(委員)

- ・段々と煮詰まってきて長崎の将来像が具現化していくのかなと感じている。
- ・二つの世界遺産候補の進展状況を教えていただきたい。
- ・路面電車に関しては、期待するところではあるが、トランジットモール、松が枝の南伸、浦上川対岸地区への乗り入れの実現に向けてどのような課題があるのか教えていただきたい。
- ・県庁舎の移転を踏まえて跡地の利用計画も大きなビジョンとして捉えるべき。
- ・コンベンション施設を長崎に造りたいという想いでいる。

(事務局)

- ・長崎の教会群とキリスト教関連遺産は平成26年度登録を目指そうと考えている。また、九州・山口の近代化産業遺産群は平成27年度登録を目標としている。
- ・今年度中に最終的な構成要素を整理した上で推薦書を作成する予定である。
- ・これまで、一つの国からユネスコに正式に登録推薦する場合、自然遺産で一つ、文化遺産で一つということが標準であるが、国内での優先順位をどのようにして上げていこうかということである。
- ・路面電車の延伸の件は、松が枝方面への延伸、旭大橋を低床化した場合の旭町方面までの延伸を検討したいと思っているが、路面電車の経営収支、そして、どのような需要があり、採算が見込めるのかが前提となってくる。まちづくりの観点から行政としてどのような応援ができるのかも詰めていく必要がある。
- ・県庁舎については、今年度設計費用を計上しているが、3月11日の東日本大震災を受けて、海に面した魚市跡地が津波等に対して大丈夫なのかという不安の声があっている。
- ・これに対し、県全体として地域防災計画の見直しに取り組んでいる。現在、長崎湾で想定されるもっとも大きな津波は、東海、東南海、南海の三連動地震によるものであり、国の中央防災会議のシミュレーション結果では、0～1mとなっている。震災後、従来想定していた三連動地震でよいのか、日向灘沖も含めた四連動地震とすべきなのかという議論が出ている。県としては、長崎湾に限らず県内各地で四連動地震によるシミュレーションを実施しようという方針となり、11月にはその結果が出る予定である。この結果を踏まえて議会でもご議論いただいた上で、具体的な県庁舎設計に着手していくことを想定している。

- ・跡地の活用については、長崎駅周辺エリア外なので計画素案には入っていないが、どのように活用されるのか、早く示してほしいとの声がある。また、民間の懇話会でのご議論では、県庁があったとき以上の賑わいが出るような使い方をすべきであるとの意見があった。そして、今の場所が長崎の町の発祥の地であるということで、歴史性に配慮しつつ、賑わいを出していき、また、出島との関係を考えるべきとのことでもある。
- ・跡地活用については今年度から本格的な調査を行う予定であり、どのような機能が求められるのかの事例調査や市民参加でのワークショップを進めて行こうと考えている。
- ・コンベンションについては、商工会議所から要望を頂いており、色々な議論があるが、事業採算性というか、どのようなニーズがあり、どのような施設を準備していくのか議論をしている。昨年度、長崎市の方で検討委員会が開催され提言を頂いているが、5～6千人規模の見本市が行える様なフラットな大きな空間が必要としてあるのではないかとのことであり、県も一緒に検討して行きたいと考えている。

(副市長)

- ・これまで民間も含めて協議をしてきた中では、長崎にとってコンベンションが必要であると固まりつつある。
- ・問題となるのは運営の話であり、採算性についてもう少し民間にも参加していただき詰めていく必要があるということで、近々その場を設けることとしており、もう一歩進んだ段階に入って行きたい。

(委員)

- ・市の方の駅前周辺の委員にもなっているが、一番感じたことは、商店街の皆さんからはこうしてもらったら困るという意見が必ず出てくる。地図を見ると駅前、港、鉄道高架化など将来の長崎の中心になる感じがする。
- ・20年近く新幹線の陳情に行っているが、新幹線を中心にまちづくりを考えないといけなない。博多の駅ビルは、購買力が上がっている。天神が揺らぐくらいになっているが、テナントが良いのか場所が良いのか、勉強しておかないといけなないのではないか。
- ・JRはかなりの犠牲を払って、長崎駅周辺にも出店してくるのではないかと。自分はアミュプラザの中にテナントを出店しているが、浜の町から移転させる際には、JR九州の社長自らがテナントのために要請に来られた。JRは将来、鉄道もだが、駅ビルにも力を入れて将来を見ているのだなと感じており、かなり大きい施設を建てるのではないかとと思う。
- ・その際には地元の商店街も一緒になってつくるように県や市で調整をしていただいで、この地区が長崎市民からも商店街からもある程度理解していただけるまちづくりをしないといけなないのではないか。
- ・地図を見ると長崎ではここしか残っていないから一生懸命つくらないといけなない。

(委員)

- ・全体の収束というか最後がどういう形になるのか見えない状況である。まだ不確定要素があるということもあるが、早めに都市全体のイメージが市民・県民に示せるようにしなければならなない。
- ・例えば長崎駅だが、一体どのような形の駅なのか、世界的に言えばどの駅に似ているのか。東口駅前広場、西口駅前広場、南改札口と何処にでも出ることができる様な規模の駅なのか。2階に新幹線が来て、1階がどのようなになるのか判らなない。
- ・地図上では駅前広場があって既存のホテルニュー長崎やアミュプラザがある。交通会館にあるバスの機能を近づけないとリンクしない気がする。そう言った骨格のイメージをなるべく早く示していく必要がある。

- ・その中で関連する事項として16項目示されているが、すべてがここに関わるものなのか、例えば県庁舎を低炭素型のシステムで整備することなど、わざわざここに挙げるような事項なのか。大きな事項を第一に整理して、詳細については二次的な事項として整理したほうが判り易い気がする。
- ・これだけの大きな事業がなされていく割には面積的には厳しく、融通が利かない。新幹線にしても周りに余裕がなくこの位置しかない。現在の商店街の方のご意見からすると一体どうしていくのかということになる。このままでは整理できないのかなと思う。
- ・国道202号についても、もう少し西側に寄せることは出来ないのかなど、大きな事項について早めに整理していく必要があると考えている。
- ・離島航路のフェリーターミナルを直結することなどが挙げられているが、これだけが優先して進んでしまうと出来たものを元に戻すわけにはいかないの、全体像として30年後にこういうまちになるというものを先ず示す必要がある。それに向けて実現できるものもあるだろうが、中には頓挫するものもあるので、その場合に代替のものを考えていくという提示ができればいいと考えている。

(委員)

- ・新しくものをつくることに特化していて、既存の地区との連携をどのように考えているのかということが余り書き込まれていないことが気になる。
- ・駅舎の位置が大きく変わると、交通会館との距離が長くなるので、このアクセスとして東口駅前広場をどうデザインして確保していくのかなど既存施設との連携がないなという気がする。
- ・周辺地区との関係で言うと新しくものをつくと同時に、今あるものを新たに意味づけるという視点も必要という気がする。
- ・特に駅前商店街や大黒市場などと新旧入り混じったときに、新しいものが浮かび上がってくると思うが、これをどう捉えていくのかを考える必要がある気がした。
- ・新しいものをつくったあと、どう育てるのかという視点の記載が少ない。近年エリアマネジメントということで、様々な住民や事業主や地権者が関わりながら地域の活性化に役立つイベントや店舗の誘致を進めるという取り組みが行われている。例えば福岡の天神、高松の丸亀町、東京で言うと丸の内、大手町などで見られるようになっている。
- ・いろいろな人が入れるプラットフォームというか協議する場を位置付けて、ソフト的なメニューも同時に推進していかないと、せっかく整備したものが十分な利用が図られずに、投資した以上に効果が得られないのではないかと危惧している。
- ・整備に関する事項やプログラムの中に、資料2のような感じで「地域主体となった推進体制を構築する」ことを記載してもらえればと思う。

(委員)

- ・長崎駅周辺エリアにどのような線が引かれるのかは判ったが、機能が見えない。JRの計画が表に出ていないということもあるが、商業で言うと住吉や浜の町がひっくり返るような規模の商業床が生まれるのではないかと。
- ・コンベンションの話があったが、今年度具体的に検討を進めて、仮に造るとしたら、このエリアが有力地の一つであることは間違いない。タイミング的には平成29年度の新幹線の開業に合わせるということが常識的な考え方で、今から詰めた議論をして今年度か来年度に具体的な像を見せて行くことになるので、どんな機能が入ってきてどう変わるのか、他の地域に対する影響がものすごく大きいので、出来るだけ入れ込んでいく必要がある。
- ・また、その結果を情報として出してほしい。議事録も公開されるが、アクセスしない人は知らないことになる。知らないと言っても後から気づいた時には必ず文句を言ってくる

るので、こちら側からしつこいくらいに情報を出していく必要がある。市民生活がどう変わるのか、商業の環境がどう変わっていくのか、それに備える時間をエリアの人以外にも十分に与えていただいて、長崎全体の起爆剤にできるような計画にしてほしい。この計画書を配布することもいいし、関係あるところを回って説明し、意見を貰ってもいいと思う。この計画が固まった段階で地域の人への情報公開についての工夫を行うとよい。

- ・特にコンベンションの話は非常に重要な話だと思うので、県と長崎市でもよく協議をしていただき、検討状況を見ながら、可能であれば次の会議が12月とのことなので、何らかの形で入れ込んでいただければいいと思う。

(委員)

- ・今は若者が少なくなっている現状がある。人口流出をどう止めて行くのか。まちの魅力をどのように見せて行くのが大切なのであろうと思う。
- ・ライトアップなどの整備を進めるのであれば、夜の長崎さるくの新しいコースがあってもよいのではないか。
- ・新幹線の陳情に同席したが、新幹線が無かったらこの計画は成り立たないのかなと思う。新幹線の誘致をまずしっかり、県や長崎市と一緒にやっけていかないといけない。
- ・新幹線の先にあるビジョン、来たことによりもっとよくなったというビジョンを作っていただくのがよいのではないかと考えている。

(委員)

- ・新幹線の駅が出来るということが心臓部であると思っており、それを如何にして地域の中の広域交通に繋げていくかが必要である。
- ・長崎港ターミナルとの繋がりで効果が高いものをまず考えると、直結することがよいのではないか。
- ・バスターミナルはこの場所(交通会館の位置)では問題。乗換え機能としては、駅の近くがよい。新幹線から降りてすぐが良いし、歩くにしても動線を真っ直ぐにしたほうがよい。

(委員)

- ・バス(バスターミナル)の話は中心市街地のどこにどの規模で配置すべきかを良く考える必要がある。
- ・鉄道は非常にシンボリックであるが、コンベンションとなると、大量の人が来るときはバスや乗用車の利用もあるし、観光の面からもバスが必要となってくる。
- ・日本の中では、鉄道とバスと船の3者が一体となったような交通計画を小さい場所に機能的に効率よくコントロールできている場所は、東京や大阪以外に無いと思う。バスターミナルをどこに配置するかは非常に重要な課題である。それに関連してコンベンション施設も考えると良い。
- ・コンベンションは大量の駐車場とバスが必要となる。周りの交通量に影響なく出来る場所はどこが良いのか検討したほうがよい。
- ・P41の図面を見ると今日の議論は浦上川の東側ばかりであるが、県庁舎、水辺の森公園、松が枝から水平に見ると西側の市街地をどういう風に美しくするかが関心の的になるのではないか。
- ・旭大橋が低床化すると浦上川右岸の街の作り方が大事になる。
- ・4,5階建ての街並みが繋がっていて、1階には店舗で、その上は安い宿、アパートがあり、そこに明かりが点いているという風なものができる、長崎の最後の見栄えが出来てくるかと思う。

- ・都市計画的には物凄く難しい話であり、市役所の仕事分野になるかと思うが、海から見える港町の夜景・景色を勉強していただきたい。

(委員長)

- ・長崎は昔からそうであったように文化集客都市というか、文化交流都市として生きていくしかないのではないかと。他の都市に無い素材を持っていることも事実であり、そこを伸ばしていくことが長崎に相応しい行動ではないかと思っている。
- ・コンベンション施設があまりにも少なく集客を取り逃がしているのだから、是非早く検討していただきたい。規模は大きい方がいいが採算の問題もある。6,000人規模くらいであれば、民間企業で受け皿になってくれるところも国内にいくつかあり、黒字を確保できるのではないかと。
- ・長崎は歴史が有名だが若い文化が生まれる素地が落ちてきている。かつての華やかな文化が歴史になっているが、文化は常にクリエイトしていかないと時代遅れになってしまう。そういう意味では旭町から丸尾にかけて若者文化が生まれる素地はある。元船の日通倉庫や斜面市街地でもよいので何かしら考えないといけない。
- ・長崎駅周辺だけではなく、どういう都市にしていくべきなのか考えてないとバラバラなものになってしまう。
- ・長崎バスが新地にあり、ターミナル機能が分かれている。分かれていることが悪いことではないが、駅を中心に新しいバス、離島航路、路面電車を接続するようにしなければならない。難しいとは思いますが今やらなければできないので、無理をしてでもやる必要があるかなと思っている。
- ・駅の構内、多目的広場を含めて購買力をどのように設計するのか、JRが中心となるのであろうが、どこにでもあるような店舗は購買力があるから入ってくるが、全国と同じものを長崎の駅に入れてほしくない。
- ・駅前商店街の人たちが駅の中に入るのはいかがでしょうか。整然とした店舗だけでは長崎に来た気分になれないのではないかと。その辺りをもう一工夫したほうがよい。福岡は福岡で学ぶべきところもあるかとは思いますが、150万人対50万人と人口規模が違う。長崎は全国から来ていただく必要があるというような設計になると思う。

(委員)

- ・このような計画をするときに、既定のものに捉われてはいけなからい。旭大橋を東伸し、郵便局の横に出てくる計画があるが、このような大きな計画なのにこれだけでいいのからい。例えば隣接する三角地全体を対象区域とするような設定がないと動かせないとこからい多く厳しい。これほど大きな事業をやるときに、小さなことにこだわる必要はないのからいではないか。

(事務局)

- ・交通会館の話だけでなく、バスターミナル機能全体でどう考えるか。交通会館をどうするかは決まっていないのが実情。東口駅前広場の路線バスやタクシープールをどの規模で準備するのか、具体的な機能としてどうするかについて、今年度長崎市を中心に県も交通局も含めて議論しようということになっており、下打ち合わせ的なものを始めた段階である。
- ・将来の交通会館の機能や駅前に限らず、市内全体の路面電車、バス、観光バスの駐車場確保問題、新幹線や上海航路に乗るための駐車場の需要がどの程度あるのか、この会議とは別に、事務的なレベルで県と市の関係部局で公共交通ネットワークを全体で再検討することを始めたところである。次回以降紹介できるものがあれば、紹介していきたい。
- ・浦上川の右岸側は、具体的には水辺のプロムナードしか入っていないので、色々な議論

をしてアイデアを出して行きたい。

- ・情報発信のあり方、エリアマネジメントの考え方などソフトの対応についても大変重要なご指摘として聞かせていただいたので、事務局でも議論していきたい。
- ・参考資料（上海航路、孫文と梅屋庄吉・トク夫妻の三人像）の説明。

（副知事）

あいさつ

- ・途中からの出席で大変失礼した。
- ・委員全員の皆様の意見を伺えなかったことを残念に思っている。
- ・お聞きした中では、交通網の問題や浦上川沿いのまちづくり、景観など、如何にしてトータルで設計していくかということであったかと思う。
- ・当面は長崎駅周辺エリア整備計画の策定、都市・居住環境整備基本計画の改訂に取り組んでいくが、長崎のまちづくりを考えていく際には、上海航路、辛亥革命100周年などハード・ソフトの様々な仕掛けがあるわけであるが、上海航路へ繋がる新幹線というインパクトが非常に大きなものを投じることになる。
- ・現在は、諫早駅の手前までしか認可されていないが、さらに諫早の駅部から更に2.1km伸ばして長崎駅までとすることで、はじめてまちづくりとしての交通網体系の大きな部分が完成する。
- ・それにあわせたバス網、駐車場整備、コンベンションなどいわゆるハードの部分の用意を検討していく。また、ソフトの面として長崎の教会群とキリスト教関連遺産の本登録を目指している。富士山や鎌倉、富岡製糸場など先行しているところもあるが、遅れを取らずに歩調をあわせて最短で平成26年の登録を目指していきたい。世界遺産登録もまちづくりの中で大きな要素となってきたので、長崎としてたくさんの方に来ていただき、交流をするためのインフラとして設えるものである。
- ・これらを活かして、よりよい計画を取りまとめていただければと思っている。
- ・この場以外でも、ざっくばらんにご意見ご指導いただければと思う。
- ・今後ともよろしくお願い申し上げます。

以上